

# 中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会 vol.2

平成 24 年 10 月 12 日・13 日に第 2 回中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会が開催され、第 1 日目は、モデル事業の評価に向けた調査手法や宮下地区での実績を比較検討する項目について話し合いを行ないました。また、翌日には、「地域に根ざした『宮下型共同受注』の概要について」と「平成 23 年新潟・福島豪雨災害における対応状況について」の説明を受け、意見交換会と現地調査を行いました。

## ●第 2 回中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会の開催概要

＜日 時＞ 平成 24 年 10 月 12 日（金） 15：30～17：30

＜場 所＞ 三島町民センター 2 階視聴覚室

＜参加者＞ 検討会委員、検討会事務局など計 14 名

＜議 題＞

- ・第 1 回検討会の概要と主な意見について
- ・本日の検討会の位置付けと検討内容について
- ・モデル事業の評価に向けた調査方法（案）について  
（調査項目の決定、調査方法・調査内容の決定）
- ・宮下地区での実績比較検証項目（案）について  
（調査項目の決定、調査方法等の決定）
- ・現地調査の予定について

検討会の様子



## ●第 2 回検討会の位置付け

### 第 1 回モデル事業検討会 （平成 24 年 7 月 11 日）

- ・検討会設立
- ・宮下地区の現状
- ・モデル事業の概要

### 第 2 回モデル事業検討会 （平成 24 年 10 月 12 日）

- ・モデル事業の評価に向けた調査手法の決定
- ・宮下地区での実績を比較検討する項目の決定

### 第 3 回モデル事業検討会 （平成 24 年 12 月予定）

- ・調査結果の整理と評価
- ・モデル事業改善点の把握

## ●検討会で委員の方からいただいた主な御意見

### 1. モデル事業の評価に向けた調査方法(案)について

#### 【発注者自己診断について】

- ・モデル事業導入の事前・事後評価を行うとより分かりやすい。
- ・1 年契約なので切れ目のない契約になっている。空白期間が生じないので、維持補修業務に支障が出ない。
- ・破産して事業停止になった業者があったが、共同受注のあり方が構築されていたので、それをカバーできたメリットは大きい。
- ・提案競争性という点で、提案者が 1 社しかおらず、競争性が働いていないことが課題。
- ・地域に密着している組合が作業を行うことが、各企業の技術力に繋がっている。
- ・発注者の自己診断は概ね妥当であるといえる。

#### 【道路利用者アンケートについて】

- ・対象者に、社会福祉協議会や旅館経営者、高校生を若松方面に通学させている保護者等を追加するとよい。
- ・できるだけ多くの情報が得られるように分析方法を検討したほうが良い。
- ・主旨説明をいれて、モデル事業導入前後を比較するためのアンケートであることを理解してもらうべき。
- ・調査項目に職種を入れた方が結果を分析するのに役立つ。
- ・道路に対して感じている事やトラブルにあった事、今回のモデル事業を総合的に判断してどう思うか（共同受注にして良かったのか悪かったのか）を調査項目に追加したほうが良い。
- ・アンケートを行う事が、建設業者が行っていることを地域住民に理解してもらうきっかけになると思う。

検討会の様子



### 【建設企業モニタリングについて】

- ・雇用や保有機械の増加等の実績面だけでなく、企業の経営をしていく意欲に対してモデル事業がどれだけ影響を与えているのかを把握することが重要。
- ・経営者のモデル事業に対するメリットやデメリットを把握し、さらに良い発注形式にするための改善点を見い出すようにしたい。
- ・ヒアリング調査なので質問項目だけでなく、会話の中から色々な意見を引き出すようにした方が良い。

### 2. 宮下地区での実績比較検証項目について

- ・最終的な検証は、このエリアにおけるモデル事業の良し悪しという事ではなく、他地域への導入を視野に入れた国土交通省への提言を行う事だと思っている。
- ・宮下地域の現状をよく知るとい事が現時点で大切。提案された検証項目で実態を把握するのが良い。
- ・このモデル事業は、国土交通省を初めとする関係者からの評価が高いと実感している。

## ●意見交換会及び現地調査の開催概要

＜日 時＞ 平成24年10月13日（土）9：00～11：30

＜場 所＞ 宮下地区建設会館2階会議室、  
国道252号（河沼郡柳津町大字持寄地内）道路崩壊箇所

＜参加者＞ 検討会委員、共同組合各社、検討会事務局など計17名

＜議 題＞

- ・地域に根ざした「宮下型共同受注」の概要について
- ・新潟・福島豪雨における対応状況について
- ・意見交換（質疑応答）
- ・現地調査

意見交換会の様子



## ●意見交換会における主な御意見

- ・組合員同士が共同受注を行うことによって、地域を自分達で守るという精神的な部分がとても高まった。
- ・豪雪や豪雨の災害時において、各社が担当エリアを超えて、除雪や土砂の排土、流木の撤去作業を行った。共同受注の体制が整っていたからこそスピード感のある対応もでき、早期の復旧に繋がった。
- ・共同受注にしたことでの、デメリットは無いと思っている。受注委員会が各社の繁忙の状況を把握して仕事の割り振りを行っており、定例会も開催して情報を共有するようにしている。
- ・モデル事業から3年が経過してお互いの信頼関係も深まり、さらに良く機能するようになった。課題を1つずつ解決してきた。
- ・宮下地区だけでなく建設業全体の問題として作業員の高齢化がある。若い世代をいかにして建設業界に確保するのかは、技術の伝承という観点からも大きな課題。
- ・建設業界に従事する人の確保は、国策として取り組むとともに宮下地区レベルでも考える必要がある。この地域にいる子供達を将来の担い手として育てていくのかは、早目に考える必要がある。
- ・建設業界は、自分達が地域を守っているということを、もっとPRするべき。イメージアップを図ることも担い手を確保する点においては大切である。

## ●現地調査

平成23年の新潟・福島豪雨で道路が崩壊した、国道252号（柳津町持寄地内）において、災害の発生要因や、発生状況、その後の応急工事や迂回路の設定などについての説明を受けました。

委員の方から、「地形や土地感が分かっていないと対応が難しい」という声が聞かれました。

現地調査の様子

